



新年度が始まり 2018 年のサッカーシーズンもいよいよスタートします。今シーズンは昨年以上に、選手・チーム関係者・審判員・そして関係するすべての人の力を集結して、素晴らしいシーズンにしていきたいと考えています。ぜひ、我々審判委員会の活動にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

北海道サッカーといえば、昨年 J1リーグに復帰した北海道コンサドーレ札幌が現時点で 4 位と大躍進！6 月 14 日に開幕する FIFA ワールドカップロシア大会での日本代表にも、コンサドーレのような活躍が期待されますね。そのワールドカップに日本からも 2 名の審判員がアポイントを受けました。日本代表チームと共に審判チームの活躍にも注目です。

(公財)北海道サッカー協会では、ワールドカップ・Jリーグ・Fリーグ・なでしこリーグで活躍できる審判員の育成、審判員のスキルアップをサポートする指導者の育成、各種大会への審判派遣、などを行っています。昨年は、荒上修人さんが S1 級審判員に合格し、今シーズン JFL 副審をすでに務めています。今年の候補からも 1 級審判員を輩出すべく尽力して参ります。

2018年度（公財）北海道サッカー協会 審判委員会組織図

委員長	柳元良文
-----	------

副委員長	藤井陽一※
------	-------

総務部	
部長	藤井陽一※
副部長	清野裕介
部員	佐藤 諒

強化部		育成部		指導者部		フットサル部		女子部	
部長	伊藤真也	部長	沓澤整治	部長	小宮圭示	部長	佐々木琢至	部長	大岩真由美
副部長	木下英則	副部長	古曾部統太郎	副部長	今川一輔	副部長	坪坂智光	副部長	宮武宏行
部員	伊東知哉	部員	三上正一郎	部員	森 英樹	部員	加藤具哉	部員	勝谷 忍
部員	長谷 拓	部員	佐藤 諒※	部員	村山尚哉	部員	寺島日高	部員	大石かおり
				部員	岡田 渉	部員	西川博康		

1種	2種	3種	4種	シニア	フットサル	女子
荒屋 寛	柳元良文	西谷崇宏	宮地一馬	佐藤晃彦	荒川浩幸	勝谷 忍

HKFA2-05-0497-	JFA RDO
佐藤公一	山崎裕彦

★2018FIFA ワールドカップロシアに、佐藤主審・相楽副審が選出されました



佐藤隆治主審は初、相楽副審は 3 回目のワールドカップ審判員としての選出です。日本代表チームと共に、決勝トーナメントでも活躍してもらいたいですね。

TRAUM CUP(U-22 2 級審判員春季研修会)参加レポート

●伊藤真也 INS(十勝協会)

【研修会テーマ】

JFAの2018年のテーマ「Realishing your potential」(気づき・実現)をもとに、やる気スイッチをいれられるよう指導していきましょう。
試合では「FKマネジメント」にフォーカスを当てる、なんとなく行なっている審判員が多い、何のために行うのかなど、審判員の理解度の確認とマネジメントの必要性を審判員に感じてもらう。FKの時に必要以上に笛を使わないにトライする。

【1日の流れ】

ビデオ撮影

- ・Ipad 2台(Technique APP使用)
- ・会場内審判員で分担撮影

会場運営

- ・第4審判を配置しないので、空いている審判員が交代管理など運営

試合の振り返り

- ・試合後に会場で実施
- ・最終試合は全員で夕食前に

審判報告書

- ・担当INSがチェックし夕食後の研修会時に提出

レポート

- ・主審のみ
- ・研修会終了後に集計用ファイルにて提出

【審判員を見た感想】19歳、20歳の審判員は一生懸命に動き、一生懸命に判定しようという気持ちが伝わった。そのため事象にフォーカスしすぎて次の展開を考えていないなどあったが一生懸命に取り組んでいたのが印象的であった。22歳の2名については、試合を十分に経験している印象を受けた。日頃から学連審判員として大学生の試合を担当している関東・関西の審判員で、注意のタイミング、笛のタイミング、マネジメントなど素晴らしかった。細かい判定の部分などもあったが、しっかりゲームをコントロールできる審判員であったのが印象的であった。全体的にFKマネジメントで必要以上に笛を使わない、言葉で伝えるのテーマであったが、戸惑いながら、肝心なことが選手に伝わっていないなどあったがトライしながら改善も見えた審判員もいた。

【プラクティカルトレーニングの一例】



●田口平蔵審判員(札幌協会)

今回、2018年度 U-22・20 2級審判員春季研修会に参加させていただきましたが、2級審判員となって初めての研修会であり、初めての全国研修で、このお話を受けてからとても緊張していました。この研修会でたくさんの同世代の審判員と出会い、また各地域のインストラクターからたくさん指導してもらい、たくさん刺激を受けました。今回、FKのマネジメントを重点的に研修しましたが、あまり笛を使わずにどのように声掛けをしたら選手に伝わるだろうかと試合中にも試行錯誤しながらもスムーズに進めることができたのでこれからも実践していきたいと思います。また、テーマである「Realizing your Potential」において、争点から離れて監視してしまっているのが、争点との距離を縮めるためにプレーの予測を立てると走り力が必要だと思いました。

●高橋海星審判員(函館協会)

今回研修会を通して感じたことは、自分の技術、体力、精神での足りない部分がほかの審判審と比べて多いということです。しかし、課題が多くみられたことについては、これからの審判活動での目標ができたのでうれしく思っています。これらの課題を普段の活動で解決していき、より良い審判員を目指して頑張りたいと思います。

●牧田隆史(空知協会)

FKのマネジメントでも、試合中の、ファウル時の対応や、警告の出し方など、その他の場面でも、共通して大切だと言えるのは、声をかけて選手にはっきり伝えるということであると思いました。声をかけることにより、選手との間でコミュニケーションをとることができ、試合の中で選手との信頼関係を築くことにつながり、選手とともに良い試合を作り上げていくことができるのではないかと思います。また、各試合ごとに映像を撮り、試合後にその映像を用いてフィードバックをして、自分の記憶にあまり残っていなかったことが、映像を見ることにより振り返ることができ、また、そのシーンで自分はどうすべきだったのか、どこにいるべきだったのかなど、原因を追究してから解決策まで導くことができ、自分の課題を見つけるためには最適であると思い、映像分析の利点を再確認しました。

今回の研修では、全国から22歳以下の審判員が参加しており、自分と全国の審判員との差を身をもって感じる事ができました。姿勢・ランニングフォームから、試合中の対応まで、自分には足りていない部分がたくさん見えてきて、自分の努力はまだ足りていないのだと痛感しました。さらに、1日ごとに日替わりでキャプテンを任命され、僕はそのうちの一人となったのですが、仕草や振舞いの面で直さなければいけないところがまだまだあると実感しました。今回の研修で学んだこと、また、自分に足りていないと思ったことをしっ

かり振り返り、今後の自分の審判活動に役立てていくだけでなく、自分がお世話になっている地域に還元することができるよう、地域のためにできることを考え、実行していきたいと思います。

●堀悠雅審判員(札幌協会)

ポジションは全体を通してよかった点である。レベルの高い大学チームである事で予測しやすい事が1番大きな要因であるが、昨年のIリーグからの経験やこれまでご指導いただいたことを整理でき、またフィジカルについても継続できていることも大きな要因である。特に戦術的には前線から激しいプレスをかけ、そのままボールを奪い攻撃につなげるというチームが多かった。これを分析し、主審としてポジションを先取りするときやそうでない時の状況を整理できたこともよかった点である。しかし、まだチームとしてプレスをかけ始めているのか、個人でプレスをかけ始めているのかという事が読めていないためにポジションが先取りしすぎてしまっている事があったため、チームとしてのプレスのかけ始めを見極め距離感を修正して行く事が必要であった。このことは2試合目に気づく事ができたので、3試合目では適切な距離感を保つ事ができたと思う。北海道の試合でもこのように戦術を意識したポジションを取れるよう継続して行きたい。

一方で判定基準にはまだまだばらつきがあり一貫していなかったと言える。試合に臨むにあたりFIFAの教材を用いて試合勘を取り戻したり、**Considerations Point**を読み返す事で最善の準備を行う事ができたが、自分としての線引きを保つことができなかった。日本の強豪校と言える大学であるためか、接触があっても全然気にしない選手、倒れたとしてもすぐに立ち上がりプレーを継続する選手が多くタフなプレーが非常にあった。ホールディングについてはタフさなどため、概ね正しい判定を下す事ができたが、それ以外の接触についてはより見極めやボールへの優先権や争点付近の状況を把握することを意識していきたい。

